

令和 4 年 5 月 30 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00459

研究課題名(和文) 20世紀オーストリア文学における「故郷」理念と国民意識の展開

研究課題名(英文) The idea of "Heimat" in Austrian literature of the 20th century and the development of national identity

研究代表者

杉山 有紀子 (Sugiyama, Yukiko)

慶應義塾大学・理工学部(日吉)・講師

研究者番号：70795450

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はオーストリア文学において重要な役割を果たしている「故郷」の概念について、世代・民族・思想を異にする様々な作家のテキストにおいてどのように表象されているかについて研究した。特に(1)ウィーンを中心とする多民族帝国の過去を理想化する動きと、(2)地方に根差す郷土的伝統の継続を重視する動きの二つに着目し、それぞれの「故郷」概念の特徴を分析することで、文学における「オーストリア的なもの」の表象の持つ特性を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は近現代史において繰り返しアイデンティティの危機を経験せざるを得なかったオーストリアという国の文学作品及び文化現象における「故郷」概念の特色を探求することにより、同国の文化芸術に表出する国民意識の実情を多面的に検討した。多様な背景を持つ書き手によるテキストの分析のみならず、雑誌やアンソロジー、ラジオといった媒体の特性にも注目し、さらに実際の音楽祭等の調査も行うことで、これまで「故郷」あるいは「オーストリア国民意識」という相の下で見られてこなかった作家や作品も含め、20世紀オーストリア文学における「オーストリア性」について新たな観点を提示することができた。

研究成果の概要(英文)：This project researches the concept of "Heimat", which plays an important part in Austrian literature. Above all, two aspects are focused, namely (1) the idealization of the past of the Habsburg multi-ethnic state, and (2) the continuation of the native tradition. By analyzing literary texts of various authors, the study showed the peculiarity of the expression "Austrian" in Austrian literature of the 20th century.

研究分野：オーストリア文学

キーワード：オーストリア文学 国民意識 故郷 ハプスブルク神話 郷土文学 受容史

### 1. 研究開始当初の背景

オーストリアという国は近現代史において度重なる政体や領土の変遷を経ており、特に第一次世界大戦とオーストリア＝ハンガリー帝国の崩壊、そしてナチス・ドイツへの併合とそこからの解放という二つの大きな断絶が、オーストリアの国民意識に多大な影響を与えている。それによって、その国民意識の拠り所となる「故郷」の概念もオーストリアにおいては非常に入り組んだ発展を遂げてきた。この概念の実態に関する研究は歴史学の領域が先行してきたが、文学においても、多様な背景を持つ作家（例えば都市と地方、ドイツ系・ユダヤ系・その多民族など）がそれぞれに特徴ある形でこのテーマに取り組んでおり、その多面的かつ体系的な分析が求められている。各時代のどのような作家が「故郷」という概念をどの角度から捉え、いかにして表現してきたか、また続く時代においてそれがどのように受容されたかということの探求は、オーストリア文学において常に重要な主題の一つであり続けてきた「故郷」概念をより立体的な形で理解すると同時に、オーストリアの国民意識の変遷について理解を深めるために不可欠なものである。

### 2. 研究の目的

本研究は 20 世紀前半から中盤に活動した作家について、オーストリアの「故郷」言説においてしばしば観察される ウィーンを中心とする多民族帝国のノスタルジックな理想化、地方の保守的・民族的伝統、の二大潮流について、それぞれにおける「故郷」の文学的表象がいかなる特徴を持ち、またその後の各時代においてどのように受容されたかを、具体的なテキストや出版物に即して示そうとしたものである。これによってオーストリア文学における入り組んだ「故郷」概念の精神的背景を明らかにすると共に、作家たちを従来の一面的な「ハプスブルク神話」あるいは「郷土文学」といった観点にとらわれることなく、オーストリア文学史の中により適切に位置付けていくことを目指した。

### 3. 研究の方法

研究参加者 3 名は各自が従来から行ってきた作家研究をベースとしつつ、「故郷」概念の文学的表象という観点から作品分析を深めると共に、それが掲載された媒体（新聞・雑誌、アンソロジー、ラジオ等）についても可能な限り原本またはそれに近い資料に遡り、各時代のどのような文脈において作品及び作家が受容されたかということについても検討を進めた。海外渡航が困難であった 2020 年は現地での資料調査・収集の計画を断念せざるを得なかったが、その前後にウィーン及びザルツブルクにて複数回の現地調査を行った。

この間、3 名は近接する研究分野の研究者や大学院生らと共に定期的に読書会及び研究会を開催し、論文構想についての意見交換や文献についての情報交換等を行った。また定期的な公開コキウムを開催して広く研究成果を発表し、論文としてまとめた。

### 4. 研究成果

杉山は第 2 項に記した ウィーンを中心とする多民族帝国のノスタルジックな理想化を代表する作家としてシュテファン・ツヴァイク、地方の保守的・民族的伝統の代表的作家としてカール・ハインリヒ・ヴァッガールを対象とした。ツヴァイクについては従来多く論じられてきたヨーロッパ的、あるいはユダヤ的側面から見た作家像に加え、オーストリアを「故郷」とする者として本人がどのような自意識を持っていたか、作品においてどのようにそれが語られているかを複数のテキストを通して明らかにした。さらに彼の作品が終戦直後のオーストリアにおいて、政治的立場を超えて過去のオーストリアとの架橋となる「昨日の世界」の作家という形で受容されていた実態を、当時の出版物の分析から示した。郷土文化とヴァッガールに関しては、2018 年に初演 200 年を迎えた聖歌 *Stille Nacht! Heilige Nacht!* (きよしこの夜) の受容史及び現代における扱われ方を分析し、これについて書かれたヴァッガールによる複数のテキストを比較検討するとともに、この聖歌をテーマとしたザルツブルク待降節音楽劇(創立時からヴァッガールが深く関与している)の現地取材を実施し、郷土的なものがグローバルな文脈へと結び付けら

れていく過程を明らかにした。

前田は 1945 年以降のオーストリア文学における「オーストリア的なもの」の特性について、世代間の相違や関連性に注目しつつ研究を進めた。インゲボルク・バツハマン、及びゲアハルト・フリツチュという戦後世代の作家におけるオーストリア表象について複数のテキストを題材に分析を進めるとともに、それ以前の世代に当たるハイミート・フォン・ドーデラーの長編小説『シュトゥルドルホーフ階段』とそれに関連する作品にみられる詩学の特長について、また新世代の作家たちが彼に対して持っていた複雑な関係についての研究を進めた。また戦後オーストリア文学における左右それぞれのイデオロギー的方向性を代表する文学雑誌『プラーン』及び『トゥルム』に見られる「オーストリア的なもの」の言説についても検討した。

日名は詩人ゲオルク・トラークルが戦後のオーストリア文学界において「故郷」の作家として演出されていく過程を主題として、その作品解釈の変遷及び「最後の詩」の取り扱いをめぐる問題、またトラークルの死を題材に描かれたエアハルト・ブッシュベック「鎮魂歌」の分析等に取り組んだ。また戦中から戦後間もなくにかけての抒情詩に着目し、ナチス党员であったヨーゼフ・ヴァインヘーバーと、ユダヤ系としてナチスの脅威を間近に体験したイルゼ・アイヒンガーの詩作を通して、それぞれの立場から書かれる抒情詩に見られるオーストリア的表象のあり方について分析を行った。

以上により、19 世紀後半の生まれから戦後に至る幅広い世代の、またナチス協力者やユダヤ系など多様な背景を持つ作家による小説・回想録・抒情詩・エッセイ等について、その「故郷」「オーストリア性」の表象を詳細に分析することができた。その際書籍だけでなく雑誌・アンソロジー・ラジオ等、発表媒体の多様性にも留意することで、テキスト内分析にとどまらず同時代の文脈の中でその精神的意義を明らかにすることができたのは大きな成果である。このほか 2020 年春にウィーン大学のヴィンフリート・クリークレーダー教授、ギュンター・シュトゥッカー教授を迎えての国際コロキウムを計画していたものの、新型コロナウイルス流行による渡航制限のため実現しなかった。しかしこの機会に得られたウィーンとの協力関係を今後有効に活かしつつ、情勢が許すようになれば現地での調査や情報交換も再び積極的に進め、さらにこの研究を深めていきたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 前田佳一	4. 巻 87
2. 論文標題 損傷した物語 - ゲアハルト・フリッチュ『ファッシング』における断片性の詩学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 詩・言語	6. 最初と最後の頁 87-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 前田佳一	4. 巻 141
2. 論文標題 インゲボルク・パッハマンのオーストリア表象 - 『湖への三つの道』を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 60-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 日名淳裕	4. 巻 141
2. 論文標題 ゲオルク・トラークル「最後の詩」における祖国の死と故郷の再生	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 6-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 杉山有紀子	4. 巻 61
2. 論文標題 シュテファン・ツヴァイク『未知の女の手紙』に見る幻想のウィーン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 慶應義塾大学日吉紀要 ドイツ語学・文学	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 杉山有紀子	4. 巻 141
2. 論文標題 "...dieses kleine Land - zufaellig mein Heimatland - " シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』における「故郷」としての オーストリア	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 47-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 日名淳裕	4. 巻 29
2. 論文標題 空想された故郷への埋葬 エアハルト・ブッシュベック『ゲオルク・トラークル、鎮魂歌』について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教養論集	6. 最初と最後の頁 93-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉山有紀子	4. 巻 59
2. 論文標題 "Stille Nacht! Heilige Nacht!" と戦後オーストリア 初演200周年に見る「平和の歌」としての受容をめぐる諸問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日吉紀要 ドイツ語学文学	6. 最初と最後の頁 57-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 前田佳一	4. 巻 15
2. 論文標題 オーストリア文学の過去と未来の間ーマックス・メルとイルゼ・アイヒンガーを例に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文科学研究	6. 最初と最後の頁 173-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田佳一	4. 巻 130
2. 論文標題 ウィーンの(脱)魔術化 - ハイミート・フォン・ドーデラーとインゲボルク・パッハマン	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本独文学会研究叢書	6. 最初と最後の頁 60-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山有紀子	4. 巻 38
2. 論文標題 一九四五年以降のオーストリアにおけるシュテファン・ツヴァイク受容 ヘルゾナ・ノン・グラータから「昨日の世界」の作家へ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 オーストリア文学	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 日名淳裕	4. 巻 30
2. 論文標題 「ヴァインヘーバーの場合」について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教養論集	6. 最初と最後の頁 115-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 前田佳一	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 Poetologie des Misstrauens oder literarische Symbolisierung und Mythisierung des oesterreichischen nach 1945	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Neue Beitrage zur Germanistik	6. 最初と最後の頁 68-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田佳一	4. 巻 36
2. 論文標題 Autorschaft einer jungen Dichterin - Ingeborg Bachmann und die Literaturszene im Wien der Nachkriegszeit	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 オーストリア文学	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 前田佳一
2. 発表標題 1945年以後のオーストリア文学における「オーストリア的なるもの」の象徴化と神話化
3. 学会等名 戦後オーストリア文学研究会第1回コロキウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 日名淳裕
2. 発表標題 イルゼ・アイヒンガー『贈られた助言』における「鏝」の主題
3. 学会等名 第11回日本独文学会関東支部研究発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 日名淳裕
2. 発表標題 ヨーゼフ・ヴァインヘーバー『ここに言葉がある』における「オーストリア的なるもの」
3. 学会等名 戦後オーストリア文学研究会第1回コロキウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉山有紀子
2. 発表標題 1945年以降のオーストリア文学におけるシュテファン・ツヴァイク受容 Persona non grataから「昨日の世界の作家」へ
3. 学会等名 戦後オーストリア文学研究会第1回コロキウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 前田佳一
2. 発表標題 「ウィーンは燃えている」ーインゲボルク・バッハマンのオーストリア表象と脱魔術化
3. 学会等名 日本独文学会秋季研究発表会（シンポジウム「天国への階段」ーオーストリア文学における故郷表象の虚構性）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉山有紀子
2. 発表標題 "...dieses kleine Land - zufaellig mein Heimatland-" シュテファン・ツヴァイク『昨日の世界』における「故郷」としてのオーストリア
3. 学会等名 日本独文学会秋季研究発表会（シンポジウム「天国への階段」ーオーストリア文学における故郷表象の虚構性）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 日名淳裕
2. 発表標題 ゲオルク・トラークル「最後の詩」における祖国の死と故郷の再生
3. 学会等名 日本独文学会秋季研究発表会（シンポジウム「天国への階段」ーオーストリア文学における故郷表象の虚構性）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田佳一
2. 発表標題 Autorschaft einer jungen Dichterin. Ingeborg Bachmann und die Literaturszene im Wien der Nachkriegszeit.
3. 学会等名 Internationales Kolloquium. Autorschaft und Autorkonzept
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉山有紀子
2. 発表標題 Das Land ohne Patriotismus - Der Patriotismus ohne Land シュテファン・ツヴァイクとオーストリア「愛国」をめぐる試論
3. 学会等名 日本グリンバルツァー協会研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉山有紀子
2. 発表標題 "Die Liebe und Treue zu unserem Land kam immer mehr ins Schwinden." ユダヤ系オーストリア人亡命作家の回想と文化史論をめぐって
3. 学会等名 戦後オーストリア文学研究会第4回コロキウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 日名淳裕
2. 発表標題 Der Fall Trakl - 戦後オーストリア文学による詩人トラークルの発見と「聖別」
3. 学会等名 戦後オーストリア文学研究会第3回コロキウム
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	日名 淳裕  (Hina Atsuhiko)  (40757283)	成城大学・法学部・准教授   (32630)	
研究 分担者	前田 佳一  (Maeda Keiichi)  (70734911)	お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授   (12611)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------